



# ひきよせ

## 迎春



発行所  
天理教夕張大教会

〒068-0029 北海道  
岩見沢市9条西6丁目21

☎ 0126-22-1248

FAX 0126-23-7275

yubaridai146@gmail.com

ホームページ  
bariten.main.jp



LINE 友達登録  
お願いします

### お知らせ

大教会元旦祭  
大教会春季大祭  
大祭後、  
教祖百四十年祭

1月1日(木) 10時より  
1月15日(木) 9時半より  
1月26日(月) 10時30分より  
進級進学のお願いつとめ



# 新年のごあいさつ

## 婦人会 主任 藤田美由紀

婦人会の皆様方には、共に立教188年の会活動を盛り立てて下さいまして、誠に有難うございました。おやさまの御年祭を迎えます本年、本会の目指す成人目標に向かい、打ち出された活動方針に添って夕張支部も歩んで参りたいと存じますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 成人目標

ひながたをたどり陽気ぐらしの台となりましょう

## 活動方針

一、おつとめの大切さを学び真実の心で勤めよう

一、日々に教えを実践しおつとめを勤める人を増やそう

4月19日に開催されます、天理教婦人会第108回総会のテーマは、

「総会の会員がおちばへ人を誘っておちばへ

——別席者とともに——」

とお打ち出します。

当日は記念行事として講演会が4つの会場で開催されます。おやさまをお慕いし、お互いに声をかけ、誘いあつて、おちばへ帰らせて頂きたいと思ひます。

本年もみんな揃って心一つに、立教188年の活動を歩ませて頂きましょう。

## 青年会 委員長 高橋悟志

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願ひいたします。

昨年1月に委員長を交代し、新体制となり、1年が経ちました。

昨年は本部委員さんをお招きしての分会総会、祝梅分教会でのキャンプ、本部総会にて大垣分会との合同懇親会など様々な試みをしてまいりました。今年もたくさんの方の会員さんに参加していただけるように活動や企画をしていきたいと思っております。

本部総会での真柱様のメッセージの中で青年会活動について、「教会内容充実に関わりについていくものであることが大切」というお言葉がありました。

青年会長様からは、『布教』『求道』『伏せ込み』が青年会の原点であり、活動の根幹であります。」との述べられました。

この言葉を心とし、会員さんの心の成人の助けとなるよう、助け合い、励まし合いながら、教会を勇ませ、教会活動の一助となる

ように活動をしていければと思っております。

今年の青年会本部総会は記念すべき第百回となります。10月27日(火)開催で平日ではありますが、たくさんの方の会員さんにおちばがえりをしてもらえたらと思います。

今年の青年会活動にもご理解ご協力の程よろしく願ひいたします。

## 少年会 団長 藤田豊

昨年一年間、各隊での少年会活動ならびに夕張団にご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年は、教祖百四十年祭の年を迎えます。夕張団では、3月22日の少年会総会、こどもおちばがえり団参、8月22日の夏のこと会も、11月23日の冬のお楽しみ会を予定しております。

少し気の早いように思われるかもしれませんが、今年のこともおちばがえりにも、ぜひ多くの方にご帰参いただきたく願っております。

準備を進めるとともに、お声かけにご協力をよろしく願ひいたします。

また、新しいこどもおちばがえりテーマソング「みちのこキラリ」が発表されました。夕張団では、鼓笛隊の練習を再開し、少ないスタッフと参加者ながらも、一生懸命に取り組んでいます。

楽器に慣れていない子どもたちの中には、音が鳴らない、指が思うように運べない、音符が読めないなど、悔し涙を流しながら練習に励んでいる姿も見られます。

スタッフもリスタートの難しさを痛感しておりますが、諦めずに練習し、少しずつ上達していく姿に大きな喜びを感じています。

まだまだ演奏披露には時間がかかりますが、各パートが揃い、バンドとして一手一つに奏でる喜びを共有できるよう、また、おつとめの場でも互いに調和して勤められるよう、これからも励んでまいりますので、鼓笛活動にもご理解とお誘いのご協力をお願いいたします。本年も、どうぞよろしく願ひ申し上げます。

## 学生担当委員長 岩佐善昭

旧年中は学生会活動の上にご協力を賜り誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしく願ひいたします。

3月28日には、「教祖140年祭学生おちばがえり大会」が開催されます。これからの道を担う若人が、同じ世代の仲間と共に、おちばでしか味わえない親のぬくもりを感じてもらおう貴重な機会といたく存じますので、どうぞお声かけの程よろしく願ひいたします。

## 教祖140年祭特別展示

## 「おやさま」に行こう

昨年10月末から、おやさとやきた南右第2棟で、おやさまゆかりの品と、写真パネルで、ご在世の当時に偲ぶ展示がされていて、おやさまを身近に感じられたので、年祭の折りに帰参の際に、是非とも足を運ばれたらと、お勧めします。

まず、おやさまが端座して居た中南の門屋、つとめ場所、そして、ご休息所、いずれも狭くて低い。高弟の方々が聞き耳をたてて、おやさまのお話を聞き漏らすまいと身を乗り出して居た情景が浮かんだパネル。



「みかぐらうたの世界をたずねて」道友社編 より

当時8歳の辻とめぎくの為に辻忠作先生が郡山で買い求め担いで帰ったというお琴も展示され、山中家の宝の壺の、いやく代、米種、等と書かれた物種。お手ずから造られたぬいぐるみとか紋は実に細やかで美しかった。殊に、最後のご苦勞の折りに、帯を巻き付け枕とした下駄は、意外と高いものでありました。1月27日までの開催です。

## 十一月月次祭の様様

今年の初雪は例年より早く、10月の末には道内各地で雪景色が見られた。温度が高い日もあり、降ったり解けたりしながら少しずつ寒くなり、一步一步と冬の気配の近づく時期であった。



15日の月次祭は新穀感謝祭も兼ねており、上段には各教会、信者からお供えされた新米が高々と積み上げられた。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

おつとめ終了後、直ちに準備がなされ、大教会長を祭主に秋季霊大祭が執り行われた。この度合祀された直轄の松崎初子刀自の遺族、関係者が参列し、新たに合祀された霊様に参拝。その後、部内代表の手に合わせて、全員で参拝した。

この日は布教推進講習会が開催され、講師として布教の家兵庫寮出身の藤田美由紀大教会長夫人が壇上に上がり、自身の身上と入信

布教の家での経験を語り、参加者は講師の話に真剣に耳を傾け、涙を流しながら聴く人もいた。

(4項にて全文掲載)

## 十二月月次祭の様様

12月に入って、道内は一足飛びに真冬へと近づく気候となり、各地で大雪が降ったり、厳しい寒さの日が続いていた。14日から15日にかけて、北海道を猛烈な低気圧が襲い、各地で暴風雪に悩まされる事となった。

15日の朝、岩見沢は有難い事に、低気圧の影響をそれほど感じないような、落ち着いた日となり、日中には日差しも見られた。しかし、道内各地での風雪の影響で、参拝を断念する方も多く、改めて北国の冬の厳しさを痛感させられる日であった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。手の足りないところはみんなでお助け合って、大教会長も後半まで勤め、大屋根から雪の落ちる大きな音に驚きながらも、勇んだおつとめを勤めた。

講話には大教会長が立ち、「今日は心定めについて思います事をお話しさせていただきます。来年迎えます、1月26日のおやさま140年祭へ向けて、私達はおやさまの親心にお応えする為、一人一人が三年間と仕切って、おたすけ活動の目標を心定めました。その中で自分が思い浮かべるのは、若い頃に読んだ、東北地方のある大きな布教所の初代所長様が書かれた本の一文です。そこには、『親神様が一番大きくお受け取り下さる心定めは、一生の心定めである』と書かれていました。なるほど、お道の先人先輩方は、命懸けで親神様に乞い願って、不思議なご守護を頂かれ、この道に入られた訳ですが、いつの時代の逸話を勉強しましても、どの先達も、親神様に一生おたすけに生きる心を定めておられます。そこで自分が『おさづけの理』を拝戴した時を思い出しました。あれは別席で神様のお話を九度聞いて、生涯人だすけに歩く決心が出来たら、本席、つまりおさづけの理拝戴を願い出て頂戴するものです。当時17才の私にはそこまでの覚悟はありませんでしたが、それでも16才の春、おたすけ熱心だった祖母の出直しが信仰の元一日となり、自分も祖母のように、人生を懸けておたすけがしたいと考えておりしたので、神妙な心で拝戴の瞬間を迎えたように思います。親神様はすぐに私

を試されました。拝戴した日の夜寮の同級生が原因はわかりませんが、片足が真っ赤にただれて腫れて痛がっていたところで、人生最初のおさづけを取り次いだのでした。夢中で取次ぎ、翌日綺麗に腫れが治っていたのには僕も驚き、その同級生も『おさづけて凄いな!』と驚いていました。さらにその後、北海道に帰省した際に、小さな頃からずっと大教会で私や姉や妹を可愛がって育ててくれた中田よしのさんが、老齢となり栗沢の病院に入っていた事を知り、三日間おさづけに自転車を通い、恩返しのもりでおさづけを取り次ぎました。祖母が『同じ病室の人は皆同じいんねんなんやから、必ず取り次ぐんやで』と人に伝えていたのを知っていたので、病室の他の方にも取り次ぎ、『かえって悪くなったからやめて』と言われてたりもしましたが、その後やはり良くなったとして、落ち込んだり、おさづけは凄いなと思ったりというのが、忘れられない思い出です。それから私の人生は、特に時間を仕切って心定めをしたつもりはないのですが、何か親神様が私に期待しておられるかのように、おたすけの相手に会おうようになって行きました。一生の心定めほど親神様が受け取って下さるものは無い、これは確かな事だと信じます。今日ここにご参集下さいました皆様にも、おさづけの理を拝戴された時や、また違う時でも、人生、生涯を通して神様に誓った心定めがあるのではないのでしょうか。私達はいつもそれを携えて忘れないように、毎日通らせて頂きましょう。『にをい』は親神様がかけて下さいます。私達は何処へでも、親神様がお通りになる道をつける為に出かけましょう。教会へも、気になる人の元へも足を運び続けましょう。ただただ運んでいけば、いずれ道が付き、親神様がたすけさせて下さいます。近頃は以前にも増して、色々な事で相談にいらっしやる方が増えてきました。難しい事情も多く、自分の性根が試されますが、ようばくとして、神様の御用にお使い頂ける事が喜びです。親神様の理を立てる事を第一に思います。

今後も私の態度や心がけ次第で、だんだん陰徳を積ませて貰えれば、もっと人が、たすけを求める教会に近づけると思っています。最後に、来年一年間を、皆でご存命のおやさまに御礼を申し上げる、おちびがえりの一年にさせて頂きたいと思っております。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。」と話された。



# 布教推進講習会

## 大教会長夫人 藤田美由紀



本日はご本部布教部からお打ち出しを頂いた布教推進講習会ということで、本当なら講師の先生にお越し頂くべきところを、私で良いのだからかと思いましたが、大教会長様よりご命を頂きましたので、一生懸命つとめさせて頂きます。お付き合いの程よろしくお願ひ致します。

今日は2つのことをお話しさせて頂きたいと思います。1つは私に、「にをい」がっかり、私にたすけられた話。もう一つは私が布教に出た話です。

### ① たすけられた話

私は介護系の高校を卒業し、地元熊本で介護士として働いていましたが、25歳の時、仕事を続ける中で股関節に激しい痛みを覚え、病気を診断を受けました。お医者さんからは手術を勧められました。しかも難病指定で、手術をした上でも、完全に良くなるか分からないとの事でした。「白蓋（きゆうがい）形不全」と言う病気で大腿骨の上にかぶさっている骨盤側の受け皿部分が、通常よりも浅く、痛みを伴ってどんどん悪くなるとの事で

した。私は25歳にして絶望し、自分の未来を悲観しました。両親に話すと重たい空気が流れ、家の中が暗くなつて行くのを感じました。お医者さんの話によると、先天性なのか後天性なのか、わからないと言われ、この時は既に立っていることも辛く、体を使う介護の仕事をするのは出来ないと思いました。この先の人生が全部真っ暗になりました。仕事も結婚も出来ないと思つた悲しさはあまりに大きいものでした。

そんな時、職場の同僚より、「にをい」がっかりしました。初めは天理教って何？という感じで、キリスト教の教会だと思つたんです。わけもわからず、騙されたと思ひました。たが、誘われるまま、小高い丘に佇む天理教本山町分教会の建物の中へ入りました。初めて神殿を見たとき、なんだかそこには新鮮な空気が流れていて、居心地が良いなと思ひました。

帰りと修養科を勧められました。

両親はおちば帰りに反対し、そもそも家が仏教なので天理教に近づくことも反対していました。けれど私が「それならお父さんとお母さんは私の股関節の病気を治せる？治せないよね。」と言つたら渋々黙つてしまいました。

ただ、私にも迷いは当然あつて、このまま天理教に入ってしまったら、もう今までのように親子でいられないかもしれない。だけど、自分を救ってくれるのは天理教しかないと思ひえる。そうしておちば帰りを迷つていて、雪がチラチラと降る中で、ある時、例の同僚が家まで会いに来てくれました。

両親に話をし、説得に来てくれたのです。熊本は雪があまり降らないので、タイヤを交換する習慣がありません。そんな中、雪でスリップするかも知れないのに、山道を登つた先の私の家まで会いに来てくれたのが嬉しくてまた私は感動しました。今思えば、こういう事がよくよくの誠実の心なんだと思ひます。「誠の心に神が働く」との教え通り、彼の心、一歩前へ踏み出す勇気を下さつたのだと思ひます。

教会の会長さんは、「思い切りが因縁切りだぞ」と力強く言われました。理屈ではなく、私は「そうか、思い切りが因縁切りか」と素直に心にその言葉が治まったんです。

私は26歳になつて、ついに立教16年（平成17年）2月に初めておちば帰りをさせていたできました。そのまま修養科へ入らせていただこうと思ひましたが、さすがに3ヶ月いなくなるのは両親も納得せず、職場にも都合がつかず、その時は無理でした。一旦熊本へ戻り、会長さんより「理づくりをしないといけないね」と言われ、おちばへ引き寄せていただける理づくりにと、教会へ毎日参拝に行つたり、福岡の大教会へ参拝に行つたりと言う日々が続きました。

2ヶ月が過ぎ、いよいよ4月から修養科に入りました。教祖120年祭へ向かう三年千日の最後の三年目という時で、4月から始まる修養科も大勢でしたし、おちばは大変に賑わつていました。

私にとつて、歩けるようになりたい、救われたい一心で入つた修養科でしたが、「たすけられたい。たすけられたい。ではたすからん。人をたすけて我が身がたすかる。」と修養科中にお話を聞き、また「身上かしもの、かりものの理」、「働くと言うのは、ハタハタのものを楽にさせるから働くと言うのやで」など、おやさまの言葉を学び、とにかく、神様に受け取つて貰えるように、ひのきしんを精一杯させていただこうと思ひながら必死になつて進みました。

修養科3ヶ月目には、歩くときに痛かつたり気になつていた股関節の痛みも無くなつてきました。スッキリご守護は頂けませんでしたが、少し痛みを残してくださいの「助かつた元一日を忘れないよう、また、自分の癖と性分を自覚できるようにとの親神様の親心であるんだ」と思ひせていただきました。こうして修養科で歩ける希望を頂戴した私は、喜びの気持ちで熊本へ帰り、それから教会への日参り、ひのきしんを続けました。更に、年老いて弱りつつあつた祖母と共に、介護をしながら二度目の修養科へも進みまし

た。祖母がおさづけの理を拝戴した時は、本  
当に感動しました。

ここまでが、私に「にをい」がかかり、た  
すけられた話です。

## ② 布教に出た話

次に布教へ出た話をさせて頂きます。

修養科を修了した後、「布教の家」へ行か  
ないかと、本山町の会長さんよりお声掛けを  
いただきました。その時は一度お断りしまし  
た。人様ににをいがけをして一年間も歩くの  
は、とても自分には出来ないと思つたからです。

ところがまた次の年に、行かないかとお声  
掛けをいただきました。この時は断りきれ  
ず、泣く泣く28歳で布教の家兵庫寮に入りま  
した。1年間、布教師として毎日、お話を聞  
いていただける人、困っている人を探して歩  
きました。どんなに毎日歩いてもにをいが  
かからなくて、仲間達が皆、どなたか人を連  
れておちばへ帰った日も、私は一人で神戸の  
街をとぼとぼ歩いていて、人をたすけられな  
い、誰にもにをいがかからない辛さで、ここ  
とん自分が追い詰められました。

やつと、おちばへ帰ってくれた方も、詰所  
について席札を準備している間に行方不明に  
なり、結局神戸へ帰ってしまいました。道中、  
立ち食いそばが食べたいと駅のホームで言わ  
れて、私が「まずはおちばへ帰りましょう。  
それから食べましょう」と言ったのが気に食  
わなかったようでした。せつかくお連れした  
のに帰らせてしまった。一緒に先に食べれば  
よかったと後悔しました。

そして、寮の中で夏の「こどもおちばがえ  
り団参」の担当者が私になり、地域の子供達

に声をかけて回ったのですが、なかなか人数  
が集まらず、どうやって子供さん達をお誘い  
したら良いのかもわからず、悩んでいてひど  
く落ち込んでいる私の姿を見て、当時の寮長  
先生で、今は残念ながら出直された、京塚貢  
先生より「あんたがここへ来たのは、おやさ  
さんがあんたをたすける為やで」とお話しくだ  
さり、その時初めて自分が「布教の家」へ来  
た意味を知りました。私は2度、親神様とお  
やさまにたすけていただいたのです。心定め  
の人数には、あと1歩と言ったところでしたが、  
何とか無事にこどもおちばがえり団参を終え  
させていただけました。

それから先も相変わらず、「にをい」はか  
からず、心も倒れそうになりながら、神様だ  
けを離さないように努力しました。

年を越して1月の本部大祭。仲間は皆、人  
をおちばへお連れしました。1月26日、御本  
部の春季大祭の日。その日も私は一人ぼっち  
で神戸の町を歩いていました。この苦労が後  
に私の運命を変える事になります。

冬を超え、春を迎えて、もう少しで3月末  
の卒寮と言う時に突然、私にお見合いの話が  
来ました。詳しくは言えませんが、周りから  
見れば、良家の男性であり、良いお話だった  
かもしれない。しかし私は気が進まず、で  
も断りにくい気持ちでした。そんな折、  
布教の家が同期で、面接の時に知り合ってい  
た、当時22歳の大教会長さんと、時々布教の  
事について文通をしていたので、思い切つて  
相談させて頂き、それが縁となって、それか  
ら2年後、まさか大教会へ嫁ぐ事になるとは  
今も不思議に、信じられなく思います。

実は大教会長さんとは、私の1回目の修養

科で同期だったんです。一言も話したことは  
なかったのですが、その後受けた教人資格検  
定前期講習会でも同期だったんです。そこで  
も一言もお話ししませんでした。それが、半  
ば嫌々に進んだ布教の家の面接会場で再会し  
たのでした。

「あんたがここへ来たのは、おやささんがあ  
んなをたすける為やで」との寮長先生の言葉  
が今なら分かる気がします。

親神様、おやさまは、私が初めは絶望する  
としても、足を痛めて教会に引き寄せて下さ  
り、両親が反対しても、修養科へ進む思い切  
りがあるのか私をお試しになり、更に、人に  
「にをい」をかける布教に出る勇氣があるか  
私を試され、一人もおちばへお連れすること  
が出来ないという残酷な結果の中で、挫けな  
いで歩き続けられるかと、更に私を試し、最  
後には経済的に恵まれるであろうお見合いの  
話に流されるかどうかとも試され、私がおたす  
けに生きていきたいと心が定まったのを見計  
らつて、大教会へ嫁ぎ、生涯、人だすけにお  
使ひ下さる、おやさまの道具衆に私を選んで  
下さったのだと、今なら思う事ができます。

今、振り返ると、今の私があるのは、あの  
時、おやさまの代わりに声をかけてくれた友  
人と、修養科、布教の家へと温かく導いてく  
れた恩師の会長さん、そして挫けそうだった  
私に、自分がにをいがけに歩く意味を教えて  
下さった「布教の家」の寮長先生のおかげだ  
と思つています。

一年間布教に歩き続けて、私は初めて、あ  
の時私を必死におちばへ誘ってくれた友人  
の、誠の心が身に沁みて分かりました。

修養科、前期講習の後、私は教会のおたす

けの役に立てて頂きたいと、当時の貯金を全  
て出して、百万円をお供えさせていただきま  
した。

自分の大事な全財産をお供えさせていただ  
いたら、とても心がスツキリしました。因縁  
を切り替えよう、納消しよう、自分に出せ  
る真心を形に表して、人だすけの為におつく  
しをし、生きている喜びで報恩のひのきしん  
を行い、困っている人に会ったらおたすけ  
に回る。

天理教のようぼくになったのだから、当た  
り前のことだと思いました。親神様におたす  
けの道具に使っていただきたいから、自分の  
持っていたそれまでの荷物はおろして、人様  
の為に使わせてもらい、身も心も軽くなつて、  
一から生まれ変わった心になりたいと素直に  
思えました。

おやさま140年祭まで残り73日となりました  
その日を充実した心で迎えることができるよ  
う、おやさまにお喜びいただけるように、に  
をいがけとおたすけに頑張っていきたいと思  
います。

「二言のにをいがけは、人の運命を変える。  
それは親の声を聞く時、心の向きが変わるか  
らである。」これはかつておやさま100年祭に  
向かう旬に発布された、三代真柱様の諭達第  
三号の一節です。

皆様どうか、勇氣を出して、挫けないで、  
おたすけと、にをいがけの心を持って歩ませ  
て頂きましょう。親神様がお付け下さり、お  
やさまが連れて通つて下さるおたすけの道  
を、挫けないで歩き続けた先に、運命は変わ  
ります。ご清聴有難うございました。

(文責 藤田大和)



## 少年会 冬のお楽しみ会

インフルエンザ流行の早期到来により、会員23名、育成員34名と予想より少々参加人数の少なくなつた今回のお楽しみ会であつたが、始まつてみれば今年も大盛況となり、終会後の子どもたちには笑顔があふれ、運営に関わつたスタッフも「また次回ね」と自然に言葉が出るほど、勇み心をもらへる有難い1日となつた。

団長の挨拶に始まり、ひのきし



んの意義を説明した動画を視聴してから神殿ひのきしん。室内オリンピックでは、各チーム一手一つに玉入れ、ダンボールキャタピラレースなどで競い合う。映像を駆使した〇×ゲームで三つの約束をおさらい。ビンゴではお目当ての景品があたらないくじ引き方式に、



社会の厳しさを学ぶ。解散前には、少年会時代に鼓笛で育てて頂いたスタッフの「少年会の歌」の演奏を披露し、子どもたちに鼓笛の魅力を伝えた。また、昼食には婦人会の皆さんによる三色丼やミニオードブルが並び、心もお腹も大満足な時間となつた。

(渡部辰大)

## 青年会 ひのきしん隊参加

12月3日から7日の5日間、会員の河本佳朗さんと共に青年会ひのきしん隊に入隊いたしました。私自身、初めての入隊となりましたが、勇んでひのきしんさせていたことができました。

今回のひのきしんは、おせちや春季大祭に向けての準備が主となり、倉庫での物品の清掃や確認作業、仮設トイレの設営などを行いました。他分會とも親睦を深めることができ、また、自分自身の信仰を深めることができました。

来年度の入隊月は7月の予定です。1日のみの短期入隊も可能です。興味のある方へぜひお声がけください。ご参加お待ちしております。

(委員長 高橋悟志)

## 庶務部

### 11月

▽学修スタッフ初回者研修会 11・27・28

渡部 修太(清真布)

### 12月

▽おさづけの理拝戴

富本 菜摘(祝豊) 12・12・19

▽修養科第一〇二期修了

富本 菜摘(祝豊)

▽初席

加納 宏有(鹿水) 12・15

▽教祖140年祭学生おちばがり大会

道の学生決起の集い 12・20

富山 理雄(栗山)

▽詰所餅つきひのきしん 12・28

12月 岩佐 善昭(志加ノ谷)

1月 富山 知一(栗山)

## 大教会日誌抄 11月

5日 会長、関東信者宅(9日)

10日 会長、帰会

15日 新穀感謝月次祭、秋季霊大祭

16日 布教推進講習会

16日 会長、天理大学ふるさと会

(OB会) 北海道支部会合

19日 会長夫妻、札幌祭典

22日 こども食堂

23日 会長、おちばへ

24日 会長、本部神殿当番

25日 会長、兵庫へ

29日 会長、帰会



## 大教会日誌抄 12月

3日 青年会夕張分会、

ひのきしん隊入隊 (7日)

4日 会長、関東へ

6日 会長、本部楽人講習会(7日)

8日 会長、帰会

13日 北海道教区女子青年移動例会

夕張大教会会場 開催

15日 月次祭

19日 会長夫妻、札幌祭典

23日 会長、おちばへ

24日 会長、本部神殿当番

26日 会長、帰会

27日 各部各会慰労会

28日 大教会大掃除、餅つき

## にをいがけ実動について

### ◇活動報告

日時・11月30日 10時～15時

場所・夕張大教会

参加人数・3名

内容・神名流し、戸別訪問(15件)

### ◆次回以降実施予定

12月28日 大掃除終了後神名流し

1月15日 8時30分(神名流し)

2月28日 10時～15時

集合場所・夕張大教会

